

「2024年韓国・延世大学校スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部2年 川口 小春

1 学習成果

2回生から始めた1年間の韓国語の学習成果を今年の4月に受ける韓国語能力試験につなげるために、この留学が非常に役に立った。韓国に実際に行って、日常生活で韓国語を使う中で韓国語に対する興味や、言葉の背景にある思想や文化に対する関心も高まった。留学前、自分の中で話す能力と聞く能力はあるが、読解や作文の能力が低いと分析していた。そのため、今回の留学で苦手さを少しでも克服することを目標にして韓国に行った。3週間の学習を通して、単語を覚える時に綴りをもっと意識したり、話す時に文字をイメージしたり、具体的にどうやって読解や作文の能力を伸ばすかという方法を見つけ出せた。自分の韓国語が韓国でどれほど通用するのか、怖かったけど、思ったより通用するとわかって自信がついた。

2 海外での経験

自然に目に入るものや聞こえてくることが理解できないことがしんどかった。自分が外国人というのがはじめてで、気が抜けない生活だった。ただ、自分が外国人ということ強く意識するようになって、外国人なんだから色々うまくできなくても仕方ないと思ってもらえるだろうと開き直ってから、いろんなことができるようになった。食べてみたいものを買ってみたり、少し遠くに行ってみたり、楽しいことも多かった。

3 プログラム内容

韓国語講座は非常に満足のいく内容だった。先生の説明がすごくわかりやすく、授業中に発言の機会が必ずあるため、12人くらいの少人数で声に出して勉強できる環境がとても良かった。1日2つの文法と、授業の中で見つけた知らない文法や単語をメモして新しく学ぶというやり方が自分に合っていた。

UIC 聴講や日韓事情に関しては、負担が大きいと感じた。18日という期間で韓国語を勉強するのに必死な状況の中、午後の時間は貴重なもののため、約4回英語の授業を受けるのは負担が大きい。どちらかを選択可能にするなど、今回の半分くらいの量になるとより韓国語が勉強するのにふさわしい環境になるのではないかと思う。

4 進路への影響

進路への影響は特になかったが、自分の今後の学習傾向には影響をもたらした。英語の能力をもっと伸ばしたいという気持ちや、韓国の政治についてより詳らかに学習したいという気持ちが高まった。

UIC 聴講

内容が非常に興味深いと感じた。ジェンダー観を軸に人間の価値観の非自然化を論じる授業だった。内容に日本の文化が出てくる場面が多く、親しみを持ちながら聴講を進められた。先生の話はがんばれば理解できたが、UICの学生たちの発言は早すぎて理解できないことが多かった。延世大学の国際学部の英語能力の高さを目の当たりにして、自分ももっと英語を話せるように、理解できるようになりたいと思った。このような刺激を受けたことは良かったと思う反面、しんどいとも感じた。韓国語を勉強しにきて、韓国語しか通じない環境で、韓国語だけでなく英語の勉強もしなきゃ、と思うことは精神的に大きなストレスになった。英語の勉強は日本でも英語の授業を取れば学べるし、日本にも韓国に劣らない環境があると思うため、UIC聴講か日韓事情の授業か、どちらか自由に選べる形式だとより有意義な韓国短期留学になると感じた。